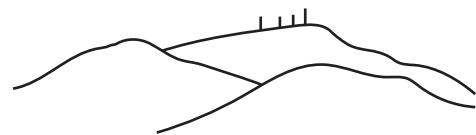


Youth Manna

2019/9/16 - 9/22



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2019/9/16(月)

イザヤ 6 章

イザヤはセラフィムと呼ばれる御使いが聖なる×3万軍の主と告白する時に、主の本当の聖さに気付く、自分の心と唇の汚れを自覚したよ。(5) 自分の罪を自覚することは辛いことでだけど、神様を信じる者はそれで終わらない。イザヤは罪を自覚したことによって、唇に炭が触れられ罪が聖められた(7)そして主のために唇を用いれるようになり、赦され聖められたからこそ聞かない民にも神の言葉を伝え続けたんだ。きみは自分の口をどのように用いているだろうか?? 神様に赦されたものとして、悪い言葉ではなく神様に喜ばれる言葉を使おう!!

2019/9/17(火)

イザヤ 7 章

アラムとイスラエルの連合の知らせを聞いて、王アハズも民も恐れました。神様はイザヤを通してアハズに語りますが、アハズは沈黙したままです。主はさらに「しるしを求めよ」と語りますが、アハズはそれを断りました。一見律法を守っているように見えますが、これは罪と汚れに満ちたアハズが神様の御前に出たくなかったからです。そして続く13節以降で驚くべきことに、救い主の預言がなされます。

「インマヌエル」とは「神はわれらとともにおられる」の意です。私たちの全ての問題の解決や答えはイエス様をご存知です。ともにいてくださるイエス様に心を開いて祈り、信じて助けを求めよう!

2019/9/18(水)

イザヤ 8 章

さばきと回復の預言が書いてあります。イスラエルとユダは、主の助けを拒み、アッシリアの軍事力に頼りました。しかし主は、主を拒み背く彼らを、ご自分が選んだ民であるがゆえに、守られます。主に頼らないイスラエル王国とユダ王国にとって、主は妨げの石、つまずきの岩、罨、落とし穴でした。しかし、イザヤと彼と共にいる人々、すなわち主を聖なる者とする人々にとっては、主は平安の拠り所、聖所となってくださいました。

私たちは、神様をどのようにみているのでしょうか。神様から目を離さずに、主のみことばに堅く立つことができるように祈ろう!

2019/9/19(木)

イザヤ 9 章

イスラエルの特徴は高ぶりと思いきい上がりであった(9節)。

そして他国に攻撃された時、神を頼ろうとせず、れんがが駄目になったらもっと高価な切り石で、いちじく桑が駄目になったらもっと高価な杉の木で立て直そうとした(10節)。つまり、反省し悔い改めようとしなかった。

私たちがすべきことは、素直に悔い改めることである。裁き主である神に素直に心を開き、心から尋ね求め、信頼して歩もう!!

2019/9/20(金)

イザヤ 10 章

1-4v はエフライム(イスラエル王国)への預言です。神様の声を無視し続け、従いませんでした。

5-34v はアッシリア(首都はニネベ、当時の強国)への預言です。神様は、そんなイスラエルを裁き(5,6)、悔い改めに導くため(20,21)にアッシリアを用いられました。しかし、アッシリアは思い上がり高ぶりしました(7-14)。だから、アッシリアもまた裁かれます(33,34)。この預言は、確かに現実のものとなりました(II列王記 18:11 と 19:35)。

3v をもう一度読もう。困難のとき、私は誰に助けを求めているだろう? 私は誰を恐れているだろう? 神様により頼もう。神様は、私をあわれんでくださいます。

2019/9/21(土)

イザヤ 11,12 章

ここでは、エッサイの根株から新芽が、若枝が、実が…と新しい時代が始まる希望が木に例えて預言されているね。

この木はイエス様のこと。そのあとは続けてイエス様、救い主がどういう方かがたくさん書かれている。そして、主を知ることが全地に満ちて、その御国がどんなところかが記されているね。

主について、御国についてよく読み、私たちがまずたくさんしていこう! 12章はその感謝の歌だ。私たちも主してくださったことの素晴らしさを大胆に感謝し、喜んで現していこう!

2019/9/22(日)

イザヤ 13 章

ここでは神様のバビロンに対する宣告が語られています。宣告と訳される言葉は、神様が権威をもって語ることを表しており、バビロンに終末的なさばきの日が近づくというものでした。バビロンの国は経済的にも文化的にも栄えていたので、おごり高ぶってへりくだることのない態度を取るようになり、神を神と認めないようになっていました。

物事がうまく進んでいるときや、何かが手に入った時、私たちもそのような態度を取ることはないでしょうか。私たちのもっているもので、神様から与えられたもの意外はありません。神様の前にへりくだり、今日さらに低く謙遜に生きられるように祈ろう。